



## 全134駅で導入 スムーズな情報共有・対応の迅速化へ

Osaka Metroでは、**駅係員同士のスムーズな情報共有と、現場対応の迅速化**を目的として、Buddycomを導入しました。

駅構内にて、白杖及び車いすをご利用のお客さまへのご案内、また体調を崩されたお客さまやお忘れ物への対応など、各種連絡・連携のために使用しています。

Buddycomは**全134駅にて導入しており、各路線や駅ごとにグループを構成して運用**しています。

また、応援要請や異常時対応は様々なグループを活用し、災害時の緊急連携にも備えています。

Buddycomに決めたのは、スマートフォン1台で完結出来ることその他、「**音声ログなど多機能である点**」や「**API連携など拡張性が高い点**」が現場にフィットする機能と評価したためです。

また、「**デジタルに不慣れな社員でも直感的に操作できる点**」も大きな魅力でした。



# 報告や対応の正確性が向上 各種情報がリアルタイムに確認可能に

## 主な使用機能

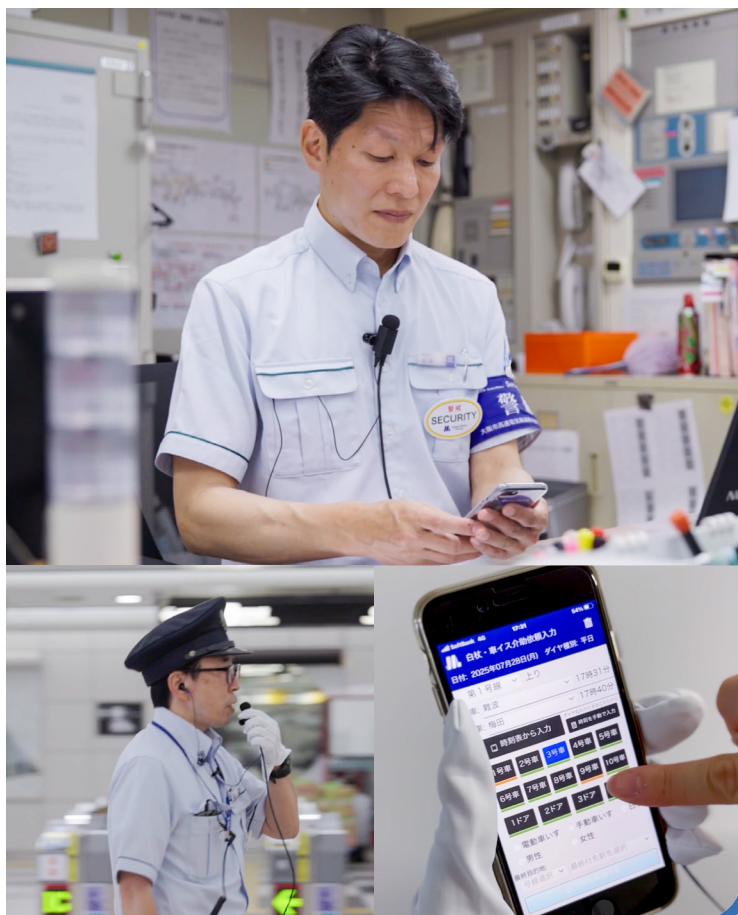


## 駅係員の身体的・心理的負担を軽減 ランニングコストも削減

Buddycomの導入によって、携行端末がスマートフォン1台に集約され、駅係員の身体的・心理的負担が大きく軽減されました。また、従来の携行端末等よりもランニングコストが安く、以前は各種端末を複数の人が交代で使用していたところを、出勤した全員がスマートフォンを携行出来るようになりました。

## 自社アプリとAPI連携 よりスムーズな現場対応を実現

自社アプリとAPI連携をすることで、白杖及び車椅子をご利用のお客さまの案内依頼や運行支障情報など、従来は事務所のPCでしか確認できなかった情報がリアルタイムに確認できるようになりました。、通知の見落としや伝達の遅れの防止に繋がっています。



## 導入前の課題

- ・ 業務用端末を3種類携行しており、重量感やコスト面で負担だった
- ・ 現場は口頭でのやりとりが中心で、聞き逃しが発生することがあった
- ・ 案内依頼や運行支障情報などの情報を事務所でしか確認できず、見落としや伝達が遅れるリスクがあった

## ご担当者からのメッセージ



Osaka Metroでは、今後、人口減少に伴い、駅係員の不足が予想されることから、機械で出来る業務は機械に任せ、人にしかできない業務に人材を集中させることを推進しています。Buddycomの活用を進めることによって、現場で起きたことが「すぐに」「正確に」伝わる環境、「場所にとらわれない」働き方を実現することで駅運営の効率化を目指します。